

平成26年度 校内研修計画書

1 学校名 高山村立高山中学校

2 校長氏名 菅谷 礼示

3 研修主任氏名 山本 順子

4 平成25年度の研修について

(1) 主題 「自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成」
～自己決定を導く資料提示や発問の工夫を通して～

(2) 成果と課題

これまでの道徳教育の全体計画を見直し、道徳と各教科、特別活動等との関わりを明らかにした「道徳教育の全体計画別業」を作成し、様々な資料を検討して道徳の年間指導計画を整備した。「はばたく群馬の指導プラン」（平成24年3月）や先進校での視察、有識者の助言などを参考に、担任をはじめ学年部で授業改善を行ってきた。その結果、これまで自己表現できなかった生徒が資料中の価値や自分の生き方について、ワークシートに自分の考えを書いたり少人数グループの中で発表したりできるようになるなど、道徳の時間の学習への意欲が高まってきた様子が窺われた。体験活動後の感想には、感動した思いやお世話になった方々への感謝の気持ちが綴られており、命を育む講座や生徒会本部役員による人権集会を通して命の大切さや「いじめを絶対に許してはならない」という思いを実感することができた様子である。

こうした成果の一方、2月末に実施した道徳意識調査では、「道徳の時間が好きですか」の質問に対し「当てはまる」13%、「大体当てはまる」56%、計69%、「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか」の質問には「当てはまる」19%、「大体当てはまる」50%、計69%と、21の質問項目の中では低い結果が表れた。道徳の授業の充実に向けた授業改善に取り組んできたが、生徒によりよく道徳的实践力を育むためには、さらに授業を改善充実させ、生徒の心に響く授業を継続して実践する必要がある。

5 平成26年度の研修計画

(1) 分野 道徳教育

(2) 主題 「自他のよさを認め、自ら判断し、よりよく生きようとする生徒の育成」
～自己決定を導く資料提示や発問の工夫を通して～

(3) 主題設定の理由

本年度は、文部科学省より委託を受けた道徳教育総合支援事業（平成25・26年度実施）の2年目に当たる。初年度は、本校の道徳教育の方針を定めるため、道徳教育の全体計画及び別業、年間指導計画を整備した。道徳の時間の授業を行うに当たって、教師は、補充・深化・統合のいずれを意図するかを考えて授業づくりを行うようになってきた。

しかし、道徳意識調査（平成26年2月実施）結果を見ると、「大体当てはまらない」「当てはまらない」と否定的に答えた生徒の割合が多かった質問が右表の通りにある。教師から見るとよいところを備えながら、それを認めていない生徒が4人に1人、道徳の時間

質 問	否定の割合
難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか	31%
自分にはよいところがあると思いますか	25%
将来の夢や目標をもっていますか	18%
「道徳の時間」の学習は好きですか	31%
「道徳の時間」では興味をもって資料を読んでいますか	18%
「道徳の時間」では、ほかの人の考えを聞きながら、自分のことについてよく考えていますか	18%

の学習に意欲的でないと感じた生徒は5人に1人いて、昨年度当初の調査と比較しても大きな変容は認められない。道徳的实践意欲はすぐに育まれるものではないであろうが、資料の提示や発問を工夫して道徳の時間の学習をさらに充実させることにより、生徒は、資料の道徳的価値を主体的に捉えて自分の生き方を見つめ、やがて道徳的实践力が向上していくものと考え、本主題を設定した。

(4) 研修内容及び方法

○全職員が協同して取り組める推進体制

- ・全体会は、各部の進捗状況や研究について共通理解を図る。
- ・実質的な活動の部会として学年部と研究開発部を設ける。
- ・研究開発部に情報分析部を設け、道徳意識調査の結果を分析して生徒の変容を探る。

○道徳の時間の授業の改善充実

- ・補充・深化・統合のいずれを意図するかを明確にして授業を行う。指導案にも明記。
- ・読み物資料や場面絵、ワークシートなどについて、視覚や聴覚に訴える効果的な提示の仕方を工夫する。
- ・発問を精選し、生徒の反応を予想して切り返しの発問を用意する。
- ・教師自身、常に文末まで言葉を選んで話すことを心がける。
- ・「はばたく群馬の指導プラン」や「私たちの道徳」「のびゆく心ファイル」（高山中）を活用する。

○生徒の実態把握と道徳教育の諸計画の見直し

- ・道徳意識調査による実態把握（4月、7月、12月、2月）
- ・生徒が感動を覚えるような魅力的な資料を発掘し、年間指導計画に位置付ける。
- ・道徳教育の全体計画及び別葉を活用する。

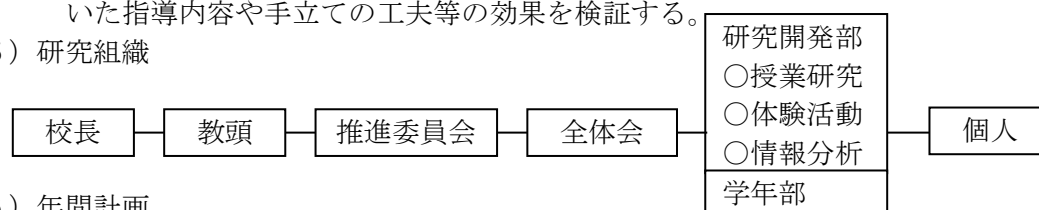
○地域との連携を目指した諸活動を積極的に行う。

- ・道徳の授業公開、講演会の開催、道徳教育に関する通信・掲示物を作成し、家庭や地域へ発信する。

○教師の資質向上

- ・一人1授業公開を原則とし、学校教育全体で道徳教育に取り組む。
- ・道徳の時間の授業改善をめざし指導主事要請訪問を行い、授業研究会では授業の視点に基づいた指導内容や手立ての工夫等の効果を検証する。

(5) 研究組織



(6) 年間計画

4 月	・昨年度の研修の振り返りと今後の展望（推進委員会） ・研修組織と研修の方向性の確認（全体会） ・「道徳意識調査」の実施		
5 月	・道徳教育の全体計画及び別葉、年間指導計画の修正（学年部） ・道徳コーナーの設置（学年部） ・指導主事計画訪問		
6 月	・第 1 回指導主事要請訪問		
7 月	・第 2 回指導主事要請訪問	・「道徳意識調査」の実施	
夏季休業	・ 1 学期研究実践のまとめ ・学習会の開催 ・研修視察		
2 学期	・第 3 回指導主事要請訪問 ・研究発表会	・講演会の開催 ・「道徳意識調査」の実施	・研修視察の実施
3 学期	・研修の成果と課題の確認 ・次年度の研修へ向けた検討	・研究紀要作成 ・「道徳意識調査」の実施	・研修の発表
年間	・道徳授業づくり ・各教科、特別活動等における道徳教育の実践 ・一人 1 授業		